

## まとめパートテキスト

今回は祓いの儀式という形で刃物の扱い方を教えていったが、お前自身の手応えとしてもかなり面白かったはずだ。

さて…

あとはまとめの知識や注意点だが…

この儀式は切れ味の鋭い刃物を扱っている事を常々忘れないことだな。

これをおろそかにすると怪我をするし危険だ。

安全に気を配って行うといいだろう。

次は刃物全般に関して。

刃物が持つ切れ味というものは人の集中力を高めるし祓いの力も高まる。

だから扱う刃物の切れ味が鋭いほどに力は高まり効率的だ。

逆に切れ味がにぶい物の場合、それを補うための強い集中力やイメージ力を必要とするから効率が悪くなる。

その意味でも刃物はよく切れる物を使うのが好ましいな。

次は切り方に関して。

「自分に取り憑いている悪い物」「黒い霧」「悪意や敵意」など

「対象」を認識して、それを切り裂くという意識で行うのも悪くは無い。

対象を認識して刃を振り下ろせば、それだけであらゆる力を切り裂いていけるが、究極的には無心で振り続けるのが良いだろう。

敵だとか味方だとかそうしたくだらない概念を超えて、ただ斬るということだけに意識を向けることが出来れば、最適かつ最高の結果が自然と導き出されるからな。

正しい動きと意識をもって何十回、何百回と振り続ければ、時おりクリティカル感覚が生まれ、周囲が一気に澄み渡るような感覚を覚える事がある。

そうしたクリティカル感覚を魂へと刻み、より良い動きが何度も再現できるよう意識して刃を振り下ろすといいだろう。

正しい動きと意識で刃を振りおろし、目の前の空間を切り裂いていけば全ての祓いが可能だからな。

言うまでも無いことだが悪意や邪念を持って振るのはNGだ。

そうした気持ちで刃を振ってもロクな事にはならないし、思念に濁りがあつては意味がないからな。

次は他の切り方に関して。

動きに慣れてきたら水平斬りや袈裟斬りぎり けさぎりを行うのも悪くは無いが、実際的にはあまり意味はない。

現時点では正面を切るだけで充分だし、これだけで事足りる。

こうした振り方は向きや角度はあまり関係がないし、むしろ慣れない切り方で動きがブレるくらいなら1つの技を極めた方が効率がいいだろう。

あと…刃物は可能な範囲で大きく振りかぶって、大きく振り下ろす方が影響を与える範囲は広くなり浄化が早くなるが、これは刃物を扱い慣れている者限定にした方がいいだろう。

刃物を使い慣れていない者が大きく振り回しても怪我をするのがオチだからな。

次は規模に関しての話。

こうした祓いの儀式は国の規模だろうが世界規模だろうが基本的には同じだ。

脳のメモリ使用は多くなるが、お前が認識できる範囲で切り裂くことができる。

広いエリアのイメージが湧きにくい場合は地図を使うのも悪く無いだろう。

次は剣の達人について。

祓いの修行を積んでいなくても、熟達した剣士はその剣捌き自体が破邪の力を有している。

切っ先や刃に込めた気迫、鍛えられた肉体による鋭い振り下ろしは、それ自体が強力な力だからな。

次は今作に関連する作品について。

儀式で使う刃物ゆめのやに加護を与えるのに関しては

「よろず魔道具 夢乃屋ネムリ」の第1巻オマモリの技法が役立つだろう。

この技法は自分の持ち物をオマモリ化かさせて加護を与えるからな。

今回使用した刃物をオマモリにしておくのも効果的だ。

魔法使い入門ツ2の第10巻「キャリブレーション」では絶対垂直や絶対水平などの正確な動きを学ぶことができる。

これはあらゆる儀式に役立つ強化技法だ。

いくら高度な呪文や所作を身につけても、動きが雑なら意味は無く、宝の持ち腐れだ。

キャリブレーションでは全ての動きを正確に行う事で、あらゆる所作や術じゅつを強化していく。

覚えておいて損はない内容だ。

呪いの防御全般に関してはノロイヤコマチの第1巻「解呪」かいじゆが役立つだろう。

これは呪い解除の総合デパートのような作品で解呪かいじゆの技法を複数紹介しているからな。

興味があるなら一度学んでおくといいだろう。

うむ…

大体のことは話したから、今日はこれぐらいにするとしよう。

今回の儀式は内容自体は簡単に思えるだろうが、どこまでも練り込める奥深さをもっているからな。

朝の澄み渡る空気の中で祓いの儀式を行えば、悪いものを切り払うだけでなく、爽やかな気持ちで一日を始めることも出来るし。

慣れてくれば実際に刃物を持たなくても、指を刀に見立てて振り下ろしたり、心の中でイメージの刃を振るうだけでも祓いを行うことが出来る。

どこでも使用できる技というのはとても有益だ。

あと、今回は短い時間で祓いの儀式を行えるショート音源を用意しておいたからな。

普段はそれを使うといいだろう。

それでは今回の稽古はこれにて終了だ。

次回はシンボルを使用した守りの技法を考えているところだが、この辺りも気が向いたらお前に教えるとしてしよう。